

市小・中学校における税教育実践のための教科書として

「平成26年度租税教育指導事例集」の発刊に当たり、一言申し上げます。

税制度は、国の運営の根幹を支える制度であり、大変重要なものであります。税制度のあり方は、私たちの生活、暮らしに直接結び付く、とても大切なものとなっております。

国民一人一人が、税金について、またその使い道等に関心を持ち、多くの皆さんの間で、「税」について議論されることは、望ましい姿であると思います。

しかしながら、一般的に個人が税について学習する場面や機会がそう多くないことも事実です。

このような中、市内小・中学校において、税制度の仕組みについて学習し、私たちの生活に果たす役割を知る租税教育は、誠に意義深いものです。

小・中学校の授業において、その指導のあり方について研究、実践を行い、具体的に様々な事例として紹介する本書は、極めて有効な税教育実践のための教科書であると認識しており、その効果が大きいと期待されるものです。

本年度は小学校8校、中学校2校の実践事例が紹介されていますが、いずれの学校でも、小学生に対して、また中学生を対象に「税」を理解させるため、さまざまな工夫を凝らしながら取り組まれており、今後の教育活動にも大変参考になるものであります。

各学校においても、ここに紹介されています実践事例を、ぜひ参考にさせていただきたいものと考えております。

結びに、登米市租税教育推進協議会の運営と、今回の実践研究の取りまとめに当たっていただいた佐沼税務署の皆様のご尽力、さらには各小・中学校教育現場の先生方のご努力とご支援に心から感謝を申し上げ、本書発刊に際してのあいさつとさせていただきます。

平成27年3月

登米市租税教育推進協議会会長

登米市教育委員会教育長

片倉敏明